

4. 仙台市のまちづくりの近年の動き

1. 転換期にある仙台のまちづくり

■仙台市の都市政策の基本的方針の改訂時期を迎える

- 仙台市基本計画、仙台市都市計画マスタープラン（都市計画に関する基本的方針）、いずれも計画期間が平成23年度（2011年度）から平成32年度（2020年度）までであり、改訂の時期を迎えている。今後の大きく変化していく、日本、宮城県及び仙台市の中長期フレームに基づく、新たな政策方針の策定に向けた検討が進められる段階にある。

2. 公民連携のまちづくりの推進

■リノベーションのまちづくり（ストック活用型都市再生）取組み

- リノベーションのまちづくり（ストック活用型都市再生）とは、一定エリアの既存ストック（民間の空き店舗や空きビルなど低未利用不動産）のリノベーションの促進や、様々な規制等から利活用が十分に図られてこなかった公共空間（道路や公園など）の利活用を推進することで、エリア全体の価値を高め、新たな賑わいの創出と魅力ある都市空間の構築を目的とした取組み。
- 平成27年9月に「せんだいリノベーションまちづくり計画検討委員会」を設置、平成28年3月に「せんだいリノベーションまちづくり計画」が市に提出された。この過程で民間のまちづくり会社が3社設立され、公共空間を利用したイベント等を開催した（下写真）。平成28年6月には民間主体に実行委員会が設立された。



定禅寺通緑地をより魅力的な空間へと利活用した「3rd LIVING at JOZENJI PARK」、地元組織「ハロ一定禅寺村」とまちづくり会社「株式会社伊達の家守舎」が連携し、開催



肴町公園で行われた「ブルックリン・ディアウト」、まちづくり会社「SENDAI COFFEE STAND」が中心になり開催

写真等資料：市政だより（28.9.1）

■公共空間利活用の先導的取組み ～定禅寺通り活性化の取組み～

- これまでも文化を創造する魅力ある街づくりや、ケヤキ並木を活かした都市景観づくりが進められてきたが、国内外、そして未来に誇れる都市文化の発信地として、さらなるブランド力向上を目指し、平成29年4月より定禅寺通りの活性化に向けて新たな取組みを開始した。
- 道路空間の再構成やエリアマネジメントの導入なども視野にいたれた魅力ある空間の創出と、それをきっかけとして、まちなかの人の回遊性を高め、仙台市がより一層多くの人々を魅了する活力ある都市となることを目指す。

資料：仙台市定禅寺活性化室

■リノベーションのまちづくり（ストック活用型都市再生）の政策的位置づけ

